

オンデマンド教材を併用したブレンド型初級文法授業

高橋 亘 (神田外語大学) ・ 工藤 嘉名子 (東京外国語大学)

- 背景**
- 日本語教育現場におけるデジタルトランスフォーメーションの進化
 - 同期型^{※1}の教育と非同期型^{※2}の教育をどう組み合わせしていくか (鈴木 2021)

※1 オンライン授業や対面授業、両者を融合したハイフレックス型授業 ※2 オンデマンド型オンライン教育、資料配布型教育

目的 対面授業にオンデマンド教材を併用したブレンド型初級文法授業の導入

- 従来の対面授業からどのように授業設計が変化したか、考察すること
- オンデマンド教材に対する履修生の使用感を明らかにすること

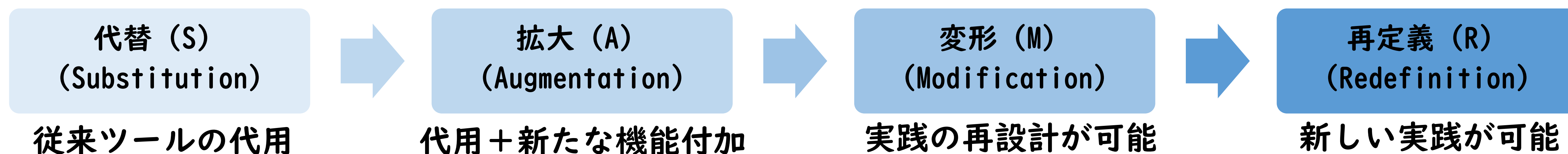
- 授業実践**
- 科目：国内高等教育機関短期留学生対象 初級文法授業「文法I」(入門レベル)
 - 時期：2023年度春学期(1学期目 9名)・秋学期(2学期目 27名)
 - 教材：初級日本語教科書『大学の日本語 初級 ともだち』Vol.1(「書籍版」)
+ Moodle上でデジタルコンテンツ化したオンデマンド教材(「オンデマンド版」)

利用コンテンツ：文型学習動画、Grammar Notes、文型練習、タスク、レッスンクイズ

SAMRモデル

Puentedura (2010)

ICTを授業等で活用する場合に、テクノロジーが従来の教授方略と比較してどの程度のインパクトを与えるかを示す尺度 (三井 2014)



授業設計の変化

内容	従来型	ブレンド型	授業設計の変化
予習	文法解説を読む(書籍版)	1学期目 文型学習動画視聴 Grammar Notes閲覧 2学期目 上記を課題化	代替 (S) にとどまる 成績評価の対象とし、 変形 (M) に昇華
授業	新出文型導入 練習問題・タスク(書籍版) 応用練習	新出文型確認 練習問題・タスク(書籍版&オンデマンド版) 応用練習	予習を課題としたため、タスク・ 応用練習の時間を長く確保可能に → 授業の再定義 (R) が実現
復習	各自実施(書籍版)	各自実施(書籍版&オンデマンド版)	レッスンクイズ： 何度でも受験可、最高点を評価対象 → クイズの準備学習として再設計
クイズ	語彙/文法(Googleフォーム)	レッスンクイズ 左記と同様	変形 (M) へ移行

質問紙調査

分析対象者：
1学期目 9名
2学期目 21名

- 1) 授業外のオンデマンド版利用時間
- 週1時間以上の利用者：
1学期目：5割強 2学期目：8割強
→ 文型動画視聴を課題化したことにより、
予習・復習時のオンデマンド教材利用が促進

- 2) 利用コンテンツ
- レッスンクイズを頻繁に利用
1学期目：8割 2学期目：9割
履修者「授業内容に沿った問題が多かった」

- 3) オンデマンド版の有用性
- オンデマンド版を勧めたい：9割
履修者「必要なときにいつでも利用できる」
「授業外に自宅でも利用できる」

- 4) オンデマンド版を用いた学習の負担感
- 負担感はない：
1学期目：8割 2学期目：7割
履修者「動画を見たいときに好きなだけ見られる」
※対面授業のほうが良いというビリーフを持つ
一部履修生には負担感があったとの回答も

- 今後の課題**
- オンデマンド版の使用頻度と学習効果との関連性分析
→ 履修生のアクセスログや成績をもとに分析、ブレンド型文法授業による効果の精査